

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



平成 30 年 12 月
海老名市立今泉中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6

資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・小学校第6学年
 - ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- どの領域もバランスよく知識を習得している。
- 選択問題の正答率が高く、特に、文に応じた適切な語句を選択する問いの正答率が高い。
- 漢字の読み書きの問いに対する正答率が高く、漢字に対する関心がみられる。

《努力を要する所》

- 慣用句の意味を答える問いの正答率が低い。
- 「書くこと」の領域の問いに対する正答率が低く、特に文を要約して書く力が低い。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 文を読んで、その内容について正しい事柄を選択する問いに対する正答率が高い。
- 全体的に無解答率が低く、積極的に問題に取り組む姿勢がみられる。

《努力を要する所》

- 「書くこと」の領域の問いに対する正答率が低く、無解答率が高いことが目立つ。

これまでの取組から

- 授業の最初に漢字のワークを5分間毎回取り組み、定期的に小テストを実施することで継続的に語彙の習得に努めた。
- より伝わる話し方を意識しながら、スピーチをしたり、話し合ったりする活動ができるように努めた。

今後の具体的な取組について

- 自分の考えを適切な文章で表現する力が不十分であるため、積極的に文章を書く課題に取り組む。
- 慣用句や単語の意味を調べる機会を多くし、語句の正しい意味を学習する機会を増やす。



数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と式」「図形」「資料の活用」の3つの分野の基本的事項については正答率が高い。また、正答率の低い問題であっても、県および全国平均の正答率を上回っているものが多い。
- 無解答率が低く、積極的に解答しようという姿勢が見られる。

《努力を要する所》

- 累乗を含む正負の計算に課題がある。
- 「関数」についての理解や定着に課題が見られる。特に、一次関数の意味や、変化の割合についての理解が不十分である。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 数の性質に関する証明問題の正答率が、県および全国平均を大きく上回っており、無解答率も低い。
- グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に捉えることができている。
- 平行四辺形の性質を理解し、適切に活用できている。

《努力を要する所》

- 分野を問わず「数学的に説明する力」が不足している。
- 普段の授業で取り組んだことのない問題になると、題意を理解し、必要な情報を読み取ることや、適切に処理することが苦手な生徒が多い。

これまでの取組から

- 基本的な計算に力を入れて取り組んできたことが、正負の数や文字式および方程式の計算力の定着につながっている。
- 「数学的に説明する力」を養うための取り組みが不足していたので、応用問題を取り上げる授業の指導について、改善と工夫をしたい。

今後の具体的な取組について

- 今まで通り、基礎的・基本的なことからの復習を繰り返しながら、応用力、中でも「数学的に説明する力」の育成に努める。
- 既習事項の中に、まだ十分身につけていないものがあるので、そういったことから振り返る機会を増やしていく。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係の問題のような、日常生活の中で見られる事物・現象に、科学的な知識を活用することが優れている。
- アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けているなど、授業で繰り返し小テストで確認した内容の正答率が高い。
- また、実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる内容は日頃からの授業で行った実験を通して、よく取り組むことができた。

《努力を要する所》

- 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題の正答率が低い。1年生の時に学習した内容をもう一度確認する必要がある。入試に向けて、1, 2年次の復習も授業中に取り組めるようにする。
- 溶液（食塩水）の質量に対する溶質（食塩）の質量の割合（質量パーセント濃度）を表す技能の正答率が低い。指導に当たっては、みそ汁や紅茶などの濃さの調整する日常生活における経験と、溶質と溶媒の質量を変化させることを関連付けて捉えられるよう、他者との討論や意見の交換を授業中にもっと行う必要性がある。

これまでの取組から

- 身のまわりにある不思議なことに疑問をもつような授業展開をし、実際に見て、触れて体験する実験を多く取り入れた。実験結果から今まで学習した知識を活用して考察を行った。その考察において新たな問題を見いだして課題を設定し、まとめる。日常生活と関連した自然の事物・現象を多目的、総合的に捉えられるようにした。
- 練習問題プリントを行い、問題解決の知識・技能の活用を行った。

今後の具体的な取組について

- 実験において、小グループでの話し合い活動などを今まで以上に取り入れ、他者との討論や意見の交換を行う場面を増やす。
- 基本的な知識がしっかりと定着するよう、授業改善に努めると共に小テストなども実施していく。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「学校の授業以外で、月～金曜日に1日あたり2時間以上勉強している」と答えた生徒が全体の5割以上を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「学校の授業以外で、月～金曜日に1日あたり30分以上読書をしている」と答えた生徒が全体の4割弱を示し、県・全国平均を上回っている。

《課題と思われる所》

- 「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と答えた生徒が県・全国平均を下回っている。
- 「家で、自分で計画を立てて学習している」と答えた生徒が全体の4割強であり、学習塾や家庭教師に教わっている以外の時間を、自ら計画し、学習に取り組むことができていない生徒が多い。

生活について

《よかった所》

- 「学校の規則を守っている」と答えた生徒が全体の9割強を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「自分には、よいところがある」と答えた生徒が全体の8割を示し、県・全国平均を大きく上回っている。

《課題と思われる所》

- 「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒が全体の6割であり、県・全国平均を下回っている。
- 「地域の行事に参加している」と答えた生徒が全体の3割であり、「地域・社会の問題や出来事の関心」や「地域社会などでのボランティア活動への参加」も県・全国平均を下回っている。

これまでの取組から

- 「適切な人権意識の育成」や「自分を大切にし、他の人を大切にする心を育む学習実践」を進めてきたことが、落ち着いた学習環境をつくり、生徒の豊かな心を育みつつあります。

今後の具体的な取組について

- ◇学校教育目標「地域とともに生き、たくましく、しなやかに未来を拓く生徒の育成」を目指し、地域や家庭との連携をさらに深めていきます。
- ◇校内研究の柱として取り組んできた「自分を大切にし、他の人を大切にする心の育成」を目指した教育活動を継続し、さらに充実した活動にしていきます。
- ◇情報リテラシー教育をさらに進め、情報に流されず適切にそれを活用する能力を伸ばしていきます。また、保護者会や学校便り等で、家庭への協力を繰り返し呼びかけていきます。
- ◇系統的なキャリア教育の推進を目指し、生徒が将来の夢を持ち、その具現化に向けて主体的に取り組もうとする姿勢の育成に努めていきます。

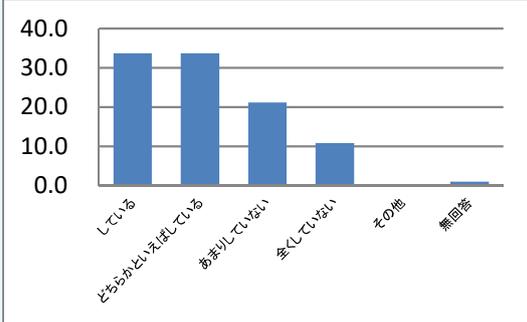
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「家庭で取り組んでいただきたいこと」をまとめました。ご家庭の状況にあわせて、できることからぜひ始めてみましょう。

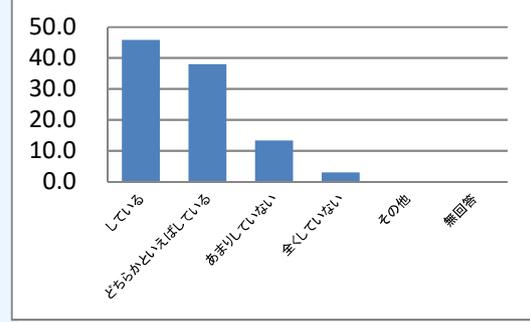
1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

「早寝・早起き・朝ご飯！」という合い言葉を聞いたことがありますか？平成22年度から「元気なえびなっ子プラン」「えびなっ子しあわせプラン」として、平成29年度まで市をあげて実現に向けて取り組んでいる内容です。今後も、ご家庭での協力をお願いします。

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



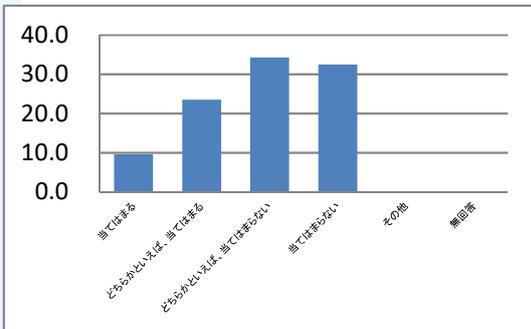
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



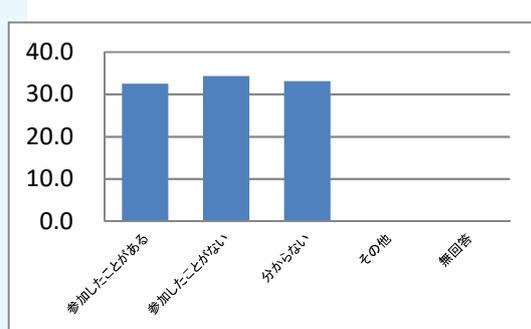
2 地域の活動には、家族で積極的に参加しましょう。

経済・社会環境や人々の意識の変化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われています。近年、地域におけるボランティアや市民活動が、新たなつながりとして増加傾向にあります。さらに、少子高齢化、核家族化、地域の教育力の低下への対応として、地域が果たす役割への期待が大きくなっており、地域のつながりの重要性がますます高まっています。

今住んでいる地域の行事に参加していますか



地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



3 地域や社会について、家族で話し合みましょう。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

